

広☆報 ふじかわ

3月号

昭和55年3月20日発行

No. 224

町のメモ

昭和55年3月1日現在

| | |
|----|----------------------|
| 人口 | 16,964人 |
| 増減 | + 19人 |
| 男 | 8,440人 |
| 女 | 8,524人 |
| 面積 | 31.09km ² |

富士川町 総務課



3町待望の
クリーンセンターが稼動

(表紙のことばは2ページに)

町の今年の目標
「きれいな町にしましょう」

商工業については、活気と活力のある商店づくり、消費者の意識高揚、企業誘致のための行政指導や、受け入れのための体制づくりに努めています。

◇みんなで考える福祉を

社会保障給付制度は、昭和54年に引き続き、そのまま踏しうさがれていました。しかし、限られた財源と後年度への負担を考えると、今の制度をそのまま享受するだけでなく、新たにその見直しや、検討を加える時代に入っています。町の単独事業としては、老人・子どものための施設づくりをさらに進めていきますが、昭和55年度においては、法人化された社会福祉協議会が、住民参加による福祉を推進する核となるため、同協議会の体制づくりと予算化を行っています。

◇健康で清潔な町づくり

結核・ガン集団検診等の推進、共立蒲原総合病院の大架空移転とともに取付道路の用地買収、公害測定機の充実等、住民のみなさんの健康管理の予算づけ、側溝改良・こうぶた工事の計画的な推進、緑の町づくりの一環として、生垣づくりの制度を新設します。

ゴミ・シ尿については、庵原郡環境衛生組合によるゴミ焼却が軌道に乗りますが、手数料の徴収、出されるゴミの分別収集の推進

等、今後、住民のみなさんのご理解とご協力が必要になります。

◇八〇年代に向けて調和のとれた町づくりを

市街地や住宅地の生活水準向上のため、下水路整備、交通・地震に対する安全対策、緑化推進、富士川河川敷のスポーツ公園化、点在する遊休地の効率的利用を行っています。

松野地区および山地の開発については、将来を展望し、教育文化

等、今後、住民のみなさんのご理解とご協力が必要になります。

◇みんなで考える福祉を

社会保障給付制度は、昭和54年に引き続き、そのまま踏しうされています。しかし、限られた財源と後年度への負担を考えると、今の制度をそのまま享受するだけではなく、新たにその見直しや、検討を加える時代に入っています。

町の単独事業としては、老人・子どものための施設づくりをさら

に進めていきますが、昭和55年度においては、法人化された社会福

祉協議会が、住民参加による福祉を推進する核となるため、同協議会の体制づくりと予算化を行って

います。

◇健康で清潔な町づくり

結核・ガン集団検診等の推進、共立蒲原総合病院の大架空移転にともなう取付道路の用地買収、公害測定機の充実等、住民のみなさんの健康管理の予算づけ、側溝改

良・こうぶた工事の計画的な推進、緑の町づくりの一環として、生垣づくりの制度を新設します。

ゴミ・シ尿については、庵原郡環境衛生組合によるゴミ焼却が軌道に乗りますが、手数料の徴収、出されるゴミの分別収集の推進

一般行政報告

◇東海地震に対する対応は

東海地震の地震防災対策強化地域にかかる防災基本計画が示されそれぞれ自治体において計画書の策定が義務づけられました。

当町におけるその対応ですが、

富士川町地域防災計画「東海地震対策編」として、総論・事前対策計画・地震防災施設緊急整備計画

砂利採取事業の工事完了届を提出しましたので、町土地利用委員会において、町との協定書および指

示事項等、細部にわたって比較検討したうえで、砂利対策特別委員会で協議していただき、東海企

業へ事後処理について返答するこ

とします。すでに2月15日に

は、県土地利用対策委員会の最終

提出していきます。

◇「野田山健康緑地公園」構想

八〇年代の余暇時代の先取りと

山間地の土地利用を合わせたこの構想は、1月上旬に中間報告がな

土地取得特別会計予算は、昭和45年に設定

55年度の重点施

策

を入れて行きます。また、交通渋滞解消を目指した生活基幹道路網

整備のための継続事業として、上

町吉津線等のバイパスの促進、富

士川右岸堤防の道路化のための予

算化等、将来に向っての道路整備

計画の予算化を行いました。

地震対策については、耐震性防

火貯水槽、可搬式動力ポンプ、自

主防災組織補助金等、継続事業の

算化等、将来に向っての道路整備

計画の予算化を行いました。

地盤改良等、将来に向っての道路整備

計画の予算化を行いました。

環境汚染は 避けられない都市化の現象か 「富士川町の環境」より

環境衛生課より2月下旬、富士川町の「公害白書」ともいえる「富士川町の環境」(54年度版)が発行されました。

これにより昭和53年度中に、みなさんから受けた苦情件数をみると、大気汚染二件、水質汚濁二件、騒音・振動・悪臭十件と、大気汚染、水質汚濁といった代表的な公害に対する苦情が減った反面、騒音・振動・悪臭など感覚的、心理的被害をともなう苦情が増加しています。また、発生源をみると、主な発生源であった工場、事業所から身近な環境に変わってきています。

そこで、今日の広報「ふじかわ」では、町で今、問題となっている公害について「富士川町の環境」の中から紹介してみます。

排気ガスにより

空気が汚染

庵原郡といえど、以前はすぐフッ化水素公害が上げられましたが対策を積極的に進める一方、企業側も公害防止計画に基づき防止対策を行った結果、環境濃度も減少し、今では植物などに影響をおぼす被災範囲も、小池下付近だけとなり、その他の地区では梅の花咲くようになりました。

昭和46年から庵原三町と県が防止策を行った結果、環境濃度も減少し、午後5時から10時の間が高く濃度が高く、一日のうちでは自動車の通行量が多い午前6時から10時、午後5時から10時の間が高くなっています。この窒素酸化物の

これが反し、現在問題となつてきたのが、自動車の排気ガスを主要発生源とする窒素酸化物と、大気中を浮遊するホコリ(浮遊粉じん)です。

まず、呼吸器系の気管、肺への障害があるといわれる窒素酸化物は、年間を通して夏より冬の方が多く、一日のうちでは自動車の通行量が多い午前6時から10時、午後5時から10時の間が高くなっています。

この窒素酸化物の

濃度を、町内の国道一号線、県道富士川身延線の各主要交差点で測定したところ、町立第一中学校測定局で一日平均値の最高値が○・四五 ppm(基準では○・○四から○・○六 ppm以内であるかまたはそれ以下)であったに対し、国一の各交差点では、その二倍以上、富士川身延線では、大型車の交通量の多い交差点で、そのまま五倍以上となっています。

町内の各交差点の濃度の高い順位は――

- ①旭町交差点
- ②本通り・静銀前交差点
- ③富士川駅前交差点
- ④富士川橋交差点
- ⑤町立第一中学校前交差点
- ⑥幸町・本郷製紙入口交差点
- ⑦町立第二小学校前交差点
- ⑧小山作業所横交差点
- ⑨秀村医院横交差点
- ⑩南松野バス停横交差点
- ⑪半在家・塩川商店横交差点

となっています。

つぎに、肺への付着が高い物質として知られている浮遊粉じんは

52年度の測定値に比べ、大幅に減っています。この機会に、私たちも

少していませんが、役場・第一中学

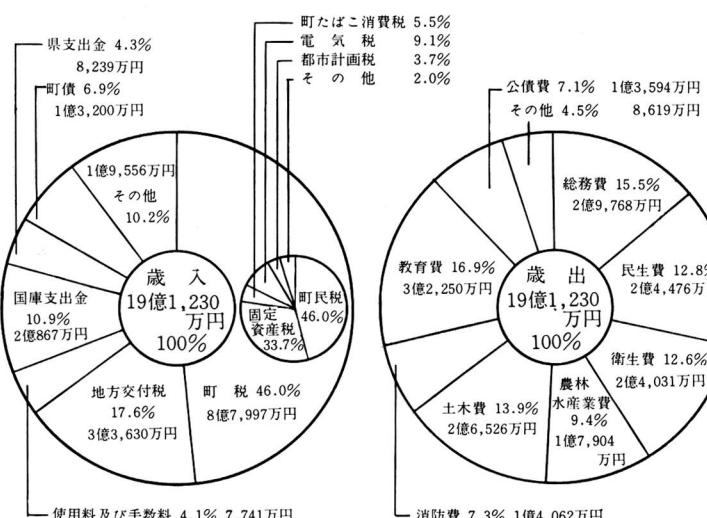
校測定局とも環境基準より高い数値を示しています。

特に第一中学校測定局の測定結果は、県下で一番目に高い数値と

なっています。

新幹線については、延長三千五百メートルの防音壁設置や八十ポン以上の騒音地区の家屋に、二重サッシや

昭和55年度 富士川町一般会計予算図



騒音・振動は

新興住宅にも広がる

「富士川町の環境」

をあなたにも

クラーなどを取付け、障害防止対策を行ったため、また、東名高速道路については、延長二千三百㍍の防音壁を設置したため、騒音問題は減少しました。しかし、国一の防音壁設置によって、富士川橋の交通停滞とともに騒音問題や県道富士川身延線のダブルアーチ橋による河川汚濁は減少しました。しかし、53年度に行つた富士川水質調査によると、北松野蓬莱橋でBOD(生物化学的酸素要求量)○・○九 ppm(基準では二ppm以内)国一富士川橋で一・一ppmであったのに對し、富士川河口になると十一 ppmと、非常に高い数値を示しました。

富士川河口で七 ppm、田中沢川・小池川で六 ppm、山田川で五 ppm、中河原川で四 ppmとなつています。この機会に、私たちも家庭排水について、もう一度見直してみましょう。

さて、騒音・振動の原因としては、何が原因しているのでしょうか?それは、みなさんの家庭からの生活排水です。ここで参考のため、都市下水路や各河川の汚濁状況を記しますと、新町・本通り市下水路で平均四十三 ppm有無瀬川で七 ppm、田中沢川・小池川で六 ppm、山田川で五 ppm、中河原川で四 ppmとなつています。この機会に、私たちも家庭排水について、もう一度見直してみましょう。

今年、三町共同のクリーンセンターが完成したことにより、騒音問題は解消します。

みなさんの中で、もっと町の公害問題を知りたいという方はいませんか。環境衛生課では、ちょっとした公害についてのアンケートに回答してくれた方に、今回発行した「富士川町の環境」(54年度版)を進呈します。希望者は、役場環境衛生課に連絡ください。

一般会計予算の内容

総務費に 二億九千七百六十八万円

土木費に 二億六千五百二十六万円

消防費に 一億四千六百六十二万円

消火栓新設工事、耐震防火水槽建築工事、常設消防所移転工事にともなう第二分団消防車庫新設工事に用地取得費に一千百万円

第三分団消防車庫新設工事にともなう第三分団消防車庫新設工事に用地取得費に一千百万円

昭和55年度当初予算編成は――
 ①経常的経費については、石油類の値上げによる物価の上昇が予想されるので、さらに節減合理化につとめ、投資的経費とあわせ、その規模を抑制する
 ②現下の厳しい財政事情の中では住民のみなさんの生活水準向上させるため、単独事業を重点化に立った計画を反映させる
 ③財源の重点的かつ効率的配分をはかるため、既定経費の見直し人件費の抑制および公共料金の適正化をはかる
 ④財源の重点的かつ効率的配分を基本方針として行います。

◎広報無線施設工事費に (木島・小山・上町・幸町他) 三百七十五万円
 ◇富士川町社会福祉協議会事業補助金に 一千万円
 ◇老人医療・町単独老人医療扶助費に 四千二百六十三万円
 ◇児童手当に 二千五百八十万円
 ◇民生費に 二億四千四百七十六万円

◇富士川町社会福祉協議会事業補助金に 七千四百五十万円
 ◇原方池野線突角改良工事、富士川右岸提防道路舗装工事他に 上げ工事、都市下水路マンホールかさ上げ工事、都市下水路サイホン改修工事他に 二千九百六十三万円
 ◇幸町大樂窓線用地取得費に 六百五十万円
 ◇小池沢、中河原川改修工事他に 六千九百八十一万円
 ◇新町都市下水路工事に 三千六百万円
 ◇蒲原病院組合負担金に 三千八百八十三万円
 ◇組合シ尿処理投入委託料、シ尿収集業務請負委託料に 三千五百十三万円
 ◇庵原郡環境衛生組合負担金に 六千九百八十一万円
 ◇農林水産業費に 一億七千九百四万円

◇富士川第一公園用地買収料に 二千二百萬円
 ◇川坂・東町六号水路改良工事、旭町都市下水路マンホールかさ上げ工事、都市下水路サイホン改修工事に 一千四百万円
 ◇幸町・南松野かんがい排水路工事、吉津小山・中之郷・南松野原方池野農道舗装、農免・四十五回工事他に八百七十五万円
 ◇公共吉津金丸線開設工事、木島

◇新町都市下水路工事に 三千六百万円
 ◇二小アーチ建設工事に 四千三百万円
 ◇二小アーチ用地購入費に 一千四百万円
 ◇松野内房線、峰山線道路災害復旧工事に 一千三百六万円
 ◇二小アーチ用地購入費に 一千四百万円
 ◇教育費に 三億二千二百五十九万円

◇消火栓新設工事、耐震防火水槽建築工事、常設消防所移転工事にともなう第三分団消防車庫新設工事に用地取得費に一千百万円

いつできるのかバイパス

県道富士川身延線バイパスは昭和50年10月

馬坂トンネルの工事着工以来、大北地区的工事開始、木島地域の全面開通、浅間林遺跡発掘のための用地買収など、年々進んでいます。

しかし、低成長が定着しつつある現在、県は前年度の実績に基づいて予算を分配するので、予算獲得の陳情をいくらしても、実績が上らないければ、予算の大増を望むのは困難となってきたといふうえに、バイパス建設に対する

みなさんの当初の盛り上った関心も、年とともに薄らぐ中で、県道には相変わらずダンプトラックが激しく行き交い、みなさんの生活に慢性的な支障をきたしています。このようなことから、バイパス問題を地域の問題として、みなさん一人ひとりがその必要性について再考してみる必要が生じているのではないかでしょうか。

なぜバイパスなのか

昭和40年代当初から高度経済成長の波にのって、県道富士川身延線に流入した車両台数は、最高時一日に九千台を超え、このうち四千台以上が砂利運搬用の大型ダンプカーでした。このため道路沿線には、交通公害が発生、排気ガスによる大気汚染をはじめ、粉じん騒音、振動と生活に支障のあるありとあらゆる被害が出たのです。

この問題は、国道1号線と交差する坂下・舟山地区において表面化、これではたまらないという住民の声とともに、町も県・国へ新

設道路の建設を希望、46年にはバイバス計画が打出されたのです。また、松野地区においても、47年に県道における交通事故が多発したことと相まって、地域住民のバイバス建設要望の熱が高まり、強い働きかけの後に、バイパス計画が成ったのでした。

当時からバイパスを作ることによって、住民の日常生活を守ることが絶対必要だったのです。

打ち出したバイパス計画は、次のようなものでした。

県のバイパス計画は

地域住民の意向を受けて、県が打ち出したバイパス計画は、次のようなものでした。

坂下・舟山地区は地元説明会の後、移転対象者との話し合いに入り、吉津・坂下地区などに約二十件が移転しましたが、移転地や商店の生活基盤確保などの問題から一部の方からは同意がいたしませんでした。また、一方ではバイバスが現道と並行して計画された住宅については、移転協力をしていただく計画でした。

松野地区は、大北地区から富士川沿いに入り、県道富士宮由比線を経、有無瀬川から中野台地の南側崖下を通過、石切場にいたるもので、当初、馬坂から木島にぬけるルート（現在のトンネル）は、工法手段等の理由により未定でした。

木島地区では公害はなくならない、環境を守るために用地の交渉は中止すべきである」との旨、陳情がされるにせんでした。また、一方ではバイバスが現道と並行して計画されたため、沿線の住民から「この路線

では公害はなくならない、環境を守るために用地の交渉は中止すべきである」との旨、陳情がされるにせんでした。また、一方ではバイバスが現道と並行して計画されたため、沿線の住民から「この路線

木島地区では50年初め、路線決定について地元から強い要望があり、説明会、測量、地域の要望などを通し、終始、地元が一致してこの問題に当たたため、52年2月には県との用地買収計画が成立、同年11月には馬坂トンネル工事着手というスピードで進み、54年3月には開通しました。

現在までの経過



北松野蓬来橋付近のバイパス工事

完成までの問題点

バイパスについて、今までの経過と将来的な見通しに立つて考えた場合、次の問題点があります。

住民の強力なバックアップ

すべての公共事業についていえることですが、地域住民の賛意と協力がなければ、事業は進みません。このバイパスについても、地域からの要望によって建設計画が生まれてきたことを、もう一度、思い起こすことが必要ではないでしょうか。計画さえできれば、いつかバイパスも完成するという、第三者的な見方は、直接建設用地にかかる当事者からみれば、何か割り切れないものを感じますし、ひいては用地の買収を難しくする一因となっています。どうしても代替地を必要とする方に、地域で搜したり用意することにより、地権者も安心して協力できることになります。

また、一方では、バイパスによって、新たな公害などの不安を募らせている方もいるでしょうが、歩道もなく、通行や横断に絶えず坂下・舟山地区にみられるようにそのままにし、ただダンプのみ河川敷を通過させるという現状維持では、問題の解決にはなりません。

ん。現在の生活をよりよくするための環境整備と、より広範な公共性に基づいて計画されたこの道路には、三つの歩道とグリーンベルトなどの施設があることも注目すべきではないでしょうか。

要はみんなが、バイパス建設に关心を持ち、完成までの過程で、便利で使いやすい道路とするため知恵を絞ることにあります。もちろんこのバイパスについても、地域からの要望によって建設計画が生まれてきたことを、もう一度、思い起こすことが必要ではないでしょうか。計画さえできれば、いつかバイパスも完成するという、第三者的な見方は、直接建設用地にかかる当事者からみれば、何か割り切れないものを感じますし、ひいては用地の買収を難しくする一因となっています。どうしても代替地を必要とする方に、地域で搜したり用意することにより、地権者も安心して協力できることになります。

実績による予算づけ

現在までのバイパス建設には、

昭和47年以降、十八億円余りの巨額の資金が投資されています。この内、完成済みの木島・馬坂トンネル間に約十四億円（50年度から53年度）かかっています。道路の建設は、短期間に予算を投入し、用地の買収、工事の施工と一緒に進めば理想ですが、限りある財源の中では、これは非常に困難なことです。まして、予算をとりまく社会的状勢は、経済の低成長、総需をこのままにし、ただダンプのみ河川敷を通過させるという現状維持では、問題の解決にはなりません。

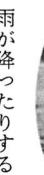
早くバイパスが欲しい

子さん
(八幡町)

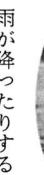


和泉たためさん
(八幡町)

天野清一郎くん
(大北町)



吉田しづゑさん
(大北町)



イバス事業を、より早く完成させたために、予算配分を少しでも多く受け、この実績のもとに予算の上乗せをはかるようにしなければなりません。県下では、このバイバスと同様に、ぜひ必要とする工事が数多くあります。地域に協力体制がなければ、予算は已らずと他の方へ投入されることになる訳です。

55年度には、大北・蓬来橋間の開通、浅間林遺跡の発掘が見込まれていますが、その後の建設をスムーズに進めるために、継続的に路線用地の確保を先行させなくしてはなりません。今後、町では、議会、地域住民と一体になって、国・県に積極的に働きかけていきます。

これらの諸問題の中で、町では住民のみなさんの要望に応えるために、多様な情報を的確に把握提供し、また、みなさんの建設的意見を反映した計画の実現をはかり、明るく住みよい町づくりを目指しています。

バイパスの建設は、交通公害をなくすことから出発していますが、松野地域や岩淵地域のみならず、町全体を長期的に見通した場合、

バイバス事業を、より早く完成させたために、予算配分を少しでも多く受け、この実績のもとに予算の上乗せをはかるようにしなければなりません。今後、町では、議会、地域住民と一体になって、国・県に積極的に働きかけていきます。

バイバスの建設は、交通公害をなくすことから出発していますが、松野地域や岩淵地域のみならず、町全体を長期的に見通した場合、

この室は県道から少し離れており、勉強にはあまり支障はないのですが、母屋でテレビを見ていると、ひつきなしにダンプが通つて、テレビの音声がよく

富士川橋の架替、サービスエリアのインター化、区画整理、松野地への企業誘致、女子短大の誘致など、富士川町の環境をよりよくするため、地元から強い要望があります。この問題に当たたため、52年2月には県との用地買収計画が成立、同年11月には馬坂トンネル工事着手というスピードで進み、54年3月には開通しました。

木島地区では50年初め、路線決定について地元から強い要望があり、説明会、測量、地域の要望などを通し、終始、地元が一致してこの問題に当たたため、52年2月には県との用地買収計画が成立、同年11月には馬坂トンネル工事着手というスピードで進み、54年3月には開通しました。

買収、52年初めから、大北—蓬来橋間の工事に入り、現在も施工中です。しかし、それ以後の用地交渉が難行し、馬坂トンネルの工事に予算が投入されたこともあります。また、沈滞し、54年になつて、一時沈滞し、54年になつて、

木島地区では50年初め、路線決定について地元から強い要望があり、説明会、測量、地域の要望などを通し、終始、地元が一致してこの問題に当たたため、52年2月には県との用地買収計画が成立、同年11月には馬坂トンネル工事着手というスピードで進み、54年3月には開通しました。

買収、52年初めから、大北—蓬来橋間の工事に入り、現在も施工中です。しかし、それ以後の用地交渉が難行し、馬坂トンネルの工事に予算が投入されたこともあります。また、沈滞し、54年になつて、一時沈滞し、54年になつて、

木島地区では50年初め、路線決定について地元から強い要望があり、説明会、測量、地域の要望などを通し、終始、地元が一致してこの問題に当たたため、52年2月には県との用地買収計画が成立、同年11月には馬坂トンネル工事着手というスピードで進み、54年3月には開通しました。



私たち、毎日の暮らしの中で肉や魚、野菜などの食料品をはじめ、日用品や衣料品などいろいろな「もの」を買っています。「ものばかりではありません。私たちには、「サービス」も買っています。たとえば、クリーニング代や美容理容料金などがそれで「もの」ではありませんが、私たちの普段の暮らしには欠かせません。

ところで、これら「もの」とか「サービス」には、それぞれ値段（価格）がついていて、高くなったり、安くなったりします。このような値段の動きについて、たとえば、鉛筆、ミカン、バーマント代といった個々の「もの」や「サービス」の価格が去年に比べてい

ます。さらにたびたび買う洗剤一箱と、たまにしか買わない高い光灯一本の値段が同じ五百円としても、洗剤が五十円高くなるのと、けい光灯が五十円高くなるのは、同じ五十円の値上がりでも、家計に響く度合いが違います。年間の購入額に差があるからです。

このような例からも分かるように、個々の値段の動きをとらえて比較するだけでは、暮らしと「もの」の価格の関係を全体としてとらえることは難しいといえます。そこで編み出されたのが「物価」。という考え方で「もの」や「サービス」の値段が全体として、去年と比べどう変わったか、その結果、家計にどんな影響をおよぼしているかについても、そう簡単ににはつかみきません。たとえ

ば、去年と比較し、ミカンは値上がりしたが、カキやリンゴなどが安かつたので、果物全体としては

値下りした、という場合もあり

かしこい消費者コーナー 物価と価格のちがい

上でのための活動拠点だと、四年前に設置されたもので、現在では、日本画、茶道、編み物、書道、舞踊など、婦人の学習の場として、積極的に利用されています。

当日は、会館内に会員が作り上げたエプロンや洋服、日ガサ、書文化、教養向上会館は、町の婦人層の文化、教養向上会館で開きました。

昭和54年度一年間の婦人会活動の成果をみなさんに披露しようと富士川町婦人会（深沢千代子会長）が、婦人会館まで3月9日開きました。

同会館は、毎月中旬行つた「合成洗剤の使用量調査」の集計結果を基に、来館者に合成洗剤の正しい使用を守る必要性を訴えたり、成人病を予防し健康な暮らしをするために、バランスのとれた食生活の推進を呼び掛けていました。

さらに、同館入口では、益金でゴミカゴを町へ贈る、不用品の即売会も開かれ、早朝からの雨にもかかわらず、お母さんたちの作品を見ようと、町をあげての婦人のお祭りは、終日来館者でにぎわっていました。

月はふとんの上でできる「目覚ましトリム」を紹介します。夜型人間が増えてくると、洗面台仕度、食事などの時間が切りつけられ、体が十分目覚めないままのものですから、気分のいいはずがあります。エンジンが温まらないのに、いきなりフル回転するようになります。体調をととのえ、事故防止のために、エンジンの始動は早くから始めておきましょう。

(1) 伸びの次に膝をかかえて横向きになる

伸び目をこすりながら、大きめの足の開きを大きくします。そこで、力を抜かないで続けて膝を強く抱き、その姿勢のまま、左向きになつてから、天井を向いて力を抜いて足を押します。

(2) 大きい大の字になる

両手を横に伸ばしたまま、足を開いて大の字姿勢になります。少しづつ足の開きを大きくして、またが痛いぐらいまで伸ばすようにします。できる人は手で腰を支えて足を前後に開くようにすれば、胃の調子もよくなります。

(3) 腰のひねり

片足を立て膝にして、反対足をその上にのせます。そのままの姿勢で、ゆっくり内側、外側に腰をできるだけふとんに付くように倒しましょう。

(4) ひじで顔をはさむ

ふとんに横になつたまま、首の後ろで指を組み、両ひじで顔をはさむようにして軽く叩きます。

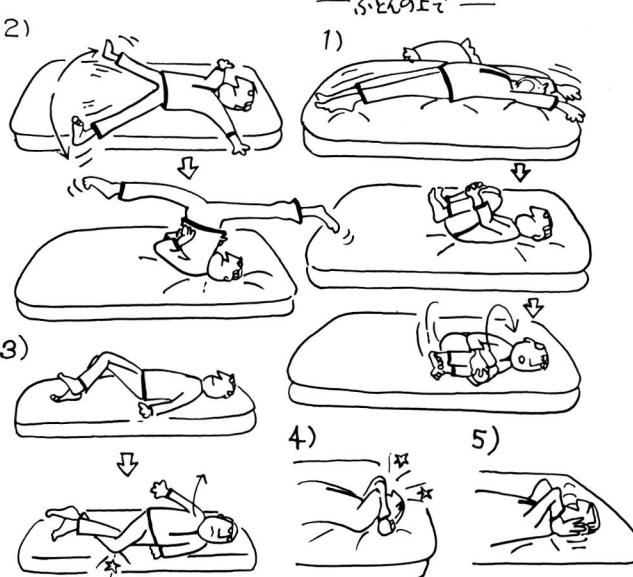
(5) 顔と首をこする

皮膚をこすり合わせることは健康上、美容上にもよいことは古くから知られているので、高齢者、女性は毎日、顔はもちらん首すじを温かくなるまで手の平でこするようにしましますか？



消費生活コーナーのコマ

(I) 目覚ましトリム



健康維持の豆知識（その一）

（その一）

今月から「福祉の豆知識」に

代り「健康維持の豆知識」を紹介することになりました。

みんな、健康を維持するため「こ

んなことが知りたい」「こんな

場合はどうしたらよいのか」な

ど、質問がありましたら、民生

課、福祉係までお手紙をお寄せください。この紙面を借り、お話をしたいと思います。

まず、今日は「姿勢」をテー

マにしてお話しします。

◇悪い姿勢と疲労は悪循環する

機械化の進んだ現代では、生

活が能率的で楽であればよいと

いうことに陥りやすいため、か

ら全体をまめに動かす工夫が

大切です。不自然な姿勢や部分

的な疲労の蓄積こそ、悪い姿勢

をつくり、生活行動を苦痛にしているのです。

◇悪い姿勢は疲労を促進させる

①不要な部分に力が入る

②重心が不安定になる

③近眼となり眼精疲労を起す

④肩こり・四十肩・頭痛・神

病となる

経痛・腰痛の原因となる

内臓を圧迫し、便秘・胃腸

病となる

あなたの姿勢は、あなた自身には見えませんが、日常の姿勢をあなた自身でチュックすることができます。立ち方や歩き方、腰かけ方など、正しい姿勢をマスターしましよう。

深呼吸もよいことです。

戸籍の窓

55
• 2 • 1 } 2 • 29

荀子略

おめでた

| 区名 | 出生年 | 保証者 | 被相手 |
|-------|-----|-----|----------|
| 相生町 | 二木 | 梨沙 | 得夫 長女 |
| 舟山町 | 多藝 | 尊元 | 忠勝 長男 |
| 旭町 | 堺町 | 齊藤 | 賢治 英之 長男 |
| | 原田 | 浩子 | 喬夫 長女 |
| 川坂 | 小澤 | 絵理 | 義幸 長女 |
| 四十九町 | 服部 | 篤宏 | 充昭 二男 |
| 大槻窪 | 宮町 | 松下 | 博記 竹男 長男 |
| | 澤添 | 守 | 茂樹 長男 |
| 宇佐美美奈 | 芳隆 | 長女 | |

か
な
し
み

旭町斎藤氏名イノ年齢
ク竹島樹雄八〇五三



うにならなくてきたことと、特に女性ならば、もつとスマートになろうとか、美容のための要素も含まれるからであろう。青海マラソンな

プロ野球のオープン戦、大相撲春場所、選抜高校野球大会と、春の始動はスポーツからのようだ。そして、スポーツに対する意識も、観る楽しみから、自分自身が

上、交通機関の発達、機械化の進行による仕事量の軽減などにより、運動不足、体力の減退を感じるよ

どの市民マラソン大会に、一般参加者が年々増加していることからわかる。

しかし、人間の心理というものは、何かスポーツを始めると、自己の体力の限界もわきまえずに、すぐその分野でのトッププレーヤーになつたりになるから始末が悪い。私の父なども先日ランニングシューズなどを買い求め、早朝マラソンを始めた。初日のい

ンナーモ、この日たつた一日で、熱を出しあえなくダウソしてしまったのだ。今では、あの宗兄弟と健脚を競うはずのランニングシューズも、ホコリをかぶり、わが家の下駄箱に眠っている。

世の自称スポーツマン・ウーマンのみなさん、私の父の体験も参考に、自己の体力を認識し、余暇を楽しくスポーツで過ごそうではないか。

所」が、わが町「富士川町」に移ったと思いました。みなさんも東海道下り線で、幸町付近（蒲原町境）を通過する時は、気を付けて左側の車窓より「麗峰富士」を見てください。

編集後記

り
南町木伏八子
啓蟄や人のそしりに雨けぶる
友を得て時を忘れし春炬燵
立春の土にやさしき雨の音
洋蘭の花に冬日のあまねしや
南町田辺つぎ子

編集後記

2月25日、木島・松野地区に、久しづりに雪が積つた。この日、子どもたちは一日じゅう雪遊びに興じていたが、私の記憶にある、子どもの頃の雪の白さとは少し違うのだ。

街に降る雪なんか、汚れてあたりまえと言うが、誰が汚したんだが。

船上デバー卜のタラップ高し雁渡
山葵田の水の蒼さよ日脚伸ぶ
る　　旭町 笠井みち子
薙たけし女人の点前や冬日影
寒の底わび茶の奥を迎うかな
南町 宇佐美幸子
風邪薬殖して夫の客通す
疲れての言葉荒れたる寒夜かな
清水町 宇佐美裕子
ラジオただ喋り続けて風邪ごこち
枯るる中來て睦むなり恩師の辺

「左富士の名所」
去る日、老人会の伊豆戸田旅行
の帰路、富士市の旧東海道依田橋
を通った時に「左富士の名所」と
いう石碑が建っていました。それ
で思い出したのが、伊東の有名な
佐藤十雨先生の「富士川にかかる
車窓右ありし富士左となり、やが
て見ええずなりけり、右の富士左と
なりて別れけり」という歌です。
しかし、その付近は現在市街化さ
れ、家が建ちならび、富士山は見
えませんでした。

文協俳句部

